

合併特例債の使い道は？

平成18年度から平成21年度（予定）までの4年間で道路の整備や学校の耐震化などに約56億円を活用しています。

合併特例債とは？

合併特例債とは、合併した市町村が、新しいまちづくりのため、新市建設計画に基づいて、特に必要な事業の財源として借り入れることができる地方債（借入金）のことをいいます。

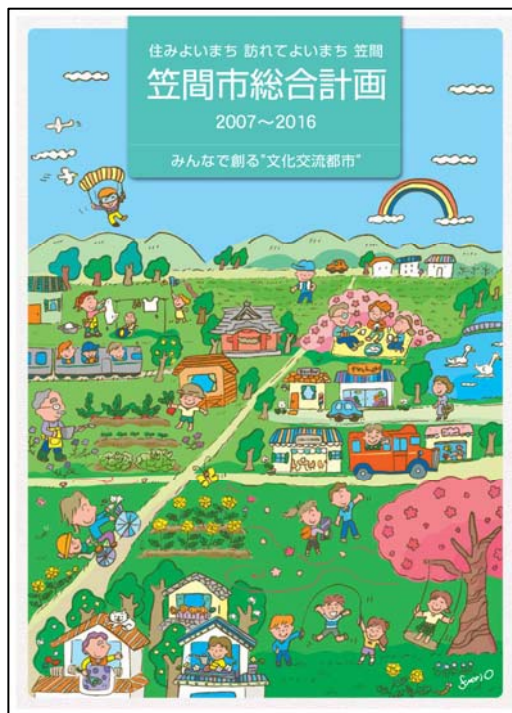
合併特例債の活用は、合併初年度を含む10力年度（笠間市では平成27年度まで）に限られます。なお、活用する事業費のおよそ95%（充当）までの借り入れることができます。借り入れた地方債の将来支払う元利償還金の70%が普通交付税によって措置されます。

どうして借り入れをするの？

その年度の支出は、その年度の収入によってまかなうことが原則です。しかし、1年間の収入だけでは、多額の経費がかかる公共施設を建設するための経費をまかなうことが出来ない場合もあるため、地方債を借り入れます。また10年、20年と長い期間利用される公共施設は、現在の住民と将来の住民とで建設にかかる経費を負担し合い、世代間の公平性をはかるといった性質もあります。

合併特例債などの地方債に安易に依存すると、結果的に将来の負担が増大してしまう恐れがあります。このため、将来の財政運営を十分に見通したうえで、合併後のまちづくりとして真に必要な事業を厳選し、地方債の活用を慎重に検討していくことが大切です。

笠間市では、約338億円の合併特例債の活用が可能ですが、合併協議会において、これをすべて活用するのではなく、道路や学校の耐震化などに真に必要なものにだけ活用することとしました。

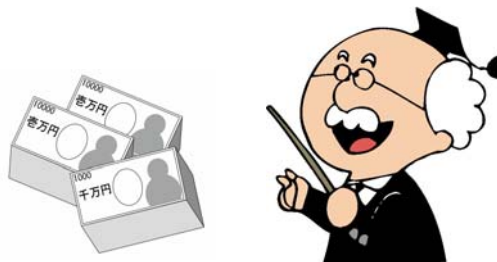


笠間市総合計画

合併特例債は、なにに使われているの？

合併特例債は、新しい笠間市の総合計画に基づいた事業で、市の一体性を高めたり、均衡ある発展や住民福祉の向上を実現するため特に必要な事業に活用することとしています。

具体的には、旧市町を結ぶ道路の整備や地域の発展に必要な駅周辺の整備、小中学校などの耐震化や児童クラブの整備など皆様の生活に身近な事業に活用しています。



平成18年度の使い道は？

新しい笠間市が平成18年3月19日に誕生し、平成18年度から、旧市町を結ぶ道路や老朽化が進んでいた小中学校の耐震補強などの事業がスタートしました。

・主な道路整備事業	
友部1級12号線	1億3,460万円
岩間1級12号線	950万円
大淵飯田線	4,750万円
岩間八郷線	4,750万円

・学校耐震補強事業	
友部中学校	
H18年度	2億6,160万円
H19年度	3億2,740万円

平成18年度は、これらの事業などで合計7億2,220万円を活用しました。



耐震補強された友部中学校

平成19年度の使い道は？

前年度から実施していた友部中学校の耐震補強が完了しました。市内小中学校8校に約100基のトイレを整備し、全ての小中学校に洋式トイレを設置しました。また、地域の発展のため岩間駅周辺整備事業に活用しました。

・都市整備事業	
岩間駅周辺整備	2億3,940万円
・主な道路整備事業	
上町大沢線	8,360万円
笠間小原線	
H18年度	3,700万円
H19年度	4,750万円

平成19年度は、これらの事業などで合計10億290万円を活用しました。

平成20年度の使い道は？

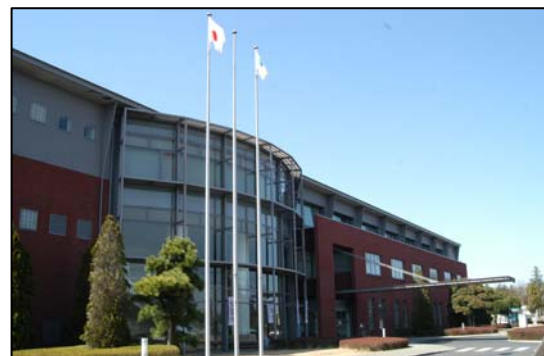
昭和42年に建設された岩間中学校の改築や友部中学校体育館の耐震補強に活用しました。また、南小学校の児童クラブ整備や、合併により大きなスペースが生じていた岩間支所に、子育て支援センターとボランティアセンター、公民館及び図書館を整備し、名称も「市民センターいわま」としました。



南小学校児童クラブ

・学校整備事業	
岩間中学校	
H19年度	3億310万円
H20年度	6億3,230万円
友部中体育館	2,190万円
・主な道路整備事業	
南友部平町線	1億8,510万円
友部2級10号線	1億2,150万円
友部池野辺線	9,500万円
・都市整備事業	
岩間駅周辺整備	4億4,420万円
稲田駅前トイレ整備	970万円

平成20年度は、これらの事業などで合計16億8,380万円を活用しました。



市民センターいわま

平成21年度の使い道は？

旧市町を結ぶ市道友部1級12号線並びに市道岩間1級12号線、岩間八郷線、友部池野辺線など複数の幹線道路が開通する予定です。また、岩間中学校の改築が完了し、2学期より新しい校舎で授業が行われています。

・主な道路整備事業

岩間八郷線	1億6,980万円
友部池野辺線	1億6,130万円
友部1級12号線	1億5,170万円
大淵飯田線	1億1,720万円

・都市整備事業

岩間駅周辺整備	2億160万円
穴戸小学校	1,970万円
児童クラブ整備	

平成21年度は、これらの事業などで合計約21億円の合併特例債の活用を予定しています。



岩間中学校の新校舎

今後の使い道は？

進めてきた幹線道路の整備や岩間駅周辺整備などに活用する予定です。また、学校の耐震補強は、耐震診断調査を踏まえて計画的に実施し、小中学校と幼稚園並びに給食施設などへの活用を予定しています。

・主な道路整備

来栖本戸線	約4億7千万円
南友部平町線	約3億7千万円
上町大沢線	約2億9千万円
笠間小原線 (桂町工区)	約2億3千万円

・都市整備事業

岩間駅周辺整備	約6億2千万円
岩間駅東大通線	約3億4千万円

合併特例債は、合併後10年間の時間的な制度です。今後、必要があるものには、財政運営を考えた上で、慎重に活用していきます。しかし、合併特例債も借入金であることに変わりはありませんので、活用できる金額の全てを活用するのではなく、真に必要なものの厳選し、有効に活用していきます。



舗装された林道本戸前山線



完成予定の市道1級12号線



市道大淵飯田線（一丁田橋）

合併特例債を活用した事業一覧

道路整備事業 4,369.3 百万円

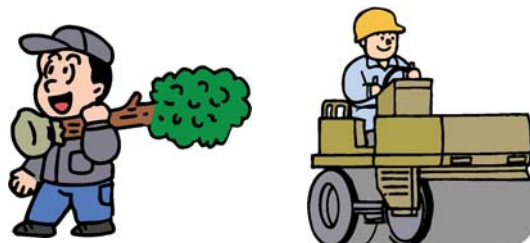
事業名	事業年度	事業費	予定借入額
笠間小原線	H18~H19	178.0	84.5
大湊飯田線	H18~H21	595.0	296.7
友部池野辺線	H18~H21	557.0	293.3
友部1級3号線	H18~H21	356.8	188.9
友部1級12号線	H18~H21	941.4	459.1
友部2級10号線	H18~H21	543.1	274.5
岩間1級12号線	H18~H21	174.9	102.3
岩間八郷線	H18~H21	531.2	297.9
上町大沢線	H18~H23	500.0	473.8
南友部平町線	H18~H27	1,250.0	787.1
来栖本戸線	H19~H26	1,200.0	558.2
友部1級5号線	H21~H24	300.9	129.5
友部1級8号線	H21~H22	68.2	29.2
友部1級11号線	H21	40.8	17.8
才木友部線	H21	220.5	94.5
荒町駅前線	H21	38.5	16.6
寺崎飯田線	H21~H23	70.6	30.3
笠間小原線 (桂町工区)	H21~H25	550.0	235.1
小計		8,116.9	4,369.3

都市整備事業 1,948.6 百万円

事業名	事業年度	事業費	予定借入額
岩間駅周辺整備	H18~H22	2,791.0	1,591.1
岩間駅東大通線	H21~H27	830.0	347.8
稲田駅前 トイレ整備	H20	31.5	9.7
小計		3,652.5	1,948.6

林道整備事業 24.5 百万円

事業名	事業年度	事業費	予定借入額
林道本戸前山線 舗装事業	H20~H21	51.7	24.5
小計		51.7	24.5



学校整備 耐震補強事業 1,584.9 百万円

事業名	事業年度	事業費	予定借入額
友部中学校 大規模改造	H18~H19	805.6	589.0
小中学校 トイレ整備	H19	34.8	33.0
友部中学校 屋内運動場 耐震補強	H20	41.5	21.9
岩間中学校 施設整備	H20~H21	1,391.5	935.4
友部第二小学校 屋内運動場 耐震補強	H21	36.4	5.6
小計		2,309.8	1,584.9



その他 92.6 百万円

事業名	事業年度	事業費	予定借入額
南小・宍戸小 児童クラブ整備	H20~H21	66.8	45.8
庁舎整備 (市民センターいわま)	H20	55.2	46.8
小計		122.0	92.6
合計		14,252.9	8,019.9